

オペラを観ていると心が洗われる。  
少し格好つけて言うけど、  
芸術はなくても死なない、  
でも、芸術があればこそ生きられる。  
このことを、身をもって経験しました。

坂田

●今月のゲスト

音楽プロデューサー

坂田康太郎さん

Kotaro Sakata

1968年神奈川県生まれ。広告代理店勤務後、株式会社クラシックコンサートや海外のオペラ招聘に携わりながら、企業の芸術、文化活動を通して若手芸術家を支援することにも、その社会進出において多くの実績を上げる。わかりやすいオペラ・クラシックの音楽解説でTV番組をはじめ、各メディアに多数出演。LOHAS Classic CDレーベルプロデューサー。「CHANNEL」ピクチャーオン・デイズプロデューサー。



めていらつしやるようですが、お酒を飲む機会が多いのでしょうか？  
坂田 そうですね。お酒は仕事に限らず、プライベートでもよく飲みます。ビールやモルトウイスキー、ワインなどが好きですね。  
尾尻 ちなみにどんな時に飲まれることが多いですか？  
坂田 私の場合、仕事柄、年間約

術に憧れるようになりまして、ある日、ひとりでパリに1泊でオペラを観に行つたことがあるんです。  
尾尻 高校生がパリにオペラを？  
坂田 そうなんです(笑)。それで

尾尻 さすがフランス、と思えるようないいエピソードですよ。  
坂田 そうなんです。その時にフランスの芸術に対する意識の高さを痛感しました。でも、またその頃は、さほどオペラにのめり込むという感じではなかったのです。  
尾尻 では、のめり込むようになったきっかけは？  
坂田 私はサラリーマン時代、広告代理店で、ある企業のメセナ活動に10年間くらい携わっていたことがあったんです。

尾尻 つまりお仕事でも芸術にふれる環境があったわけですね。  
坂田 そうです。当時、代理店の上司も芸術に対する価値を理解を示してくれました。そこで、エール・フランスの機内誌のアカウントをとりに行き、自分でパリに行つてオペラを観て、写真も撮り、記事も書くような仕事をしていました。とても勉強になりましたね。



沖村かなみ=構成  
construction by Kanami Okimura  
杉田 学=写真  
photographs by Manabu Sugita

## オペラに耳を傾け 好きな酒を友に 心とむひとときを。

第13回「My Favorite Hotel Bar」のゲストは、オペラ・クラシックの音楽プロデューサーとして活躍する坂田康太郎さん。企業のメセナ活動を通して、若手の音楽家たちの活躍の場を広げる坂田さんに、オペラの魅力について伺った。(聞き手「料理王国」CEO尾尻佳津典)

150本のオペラやコンサートを観るので、舞台を観たあとに飲むことが多いですね。レストランでワインを楽しむこともあり、隠れ家のようなホテルのバーで、モルトウイスキーを飲むのも好きです。  
尾尻 コンサートの後に飲むお酒はいいですね。坂田さんとオペラとの出会いは、どういうきっかけだったのでしょうか？  
坂田 高校生の頃に、生意気にも芸

て発掘されるのですか？  
坂田 コンサートはもちろん、コンサートや音大の発表会などに、足繁く通うようにしています。すると、キラ星のような才能に出会えることがあるんです。  
尾尻 今何人くらいのアーティストを支援されているのでしょうか？  
坂田 年間だいたい5〜6人です。音楽面だけではなく私生活のアドバイザーも含めて、アーティストとしての生き方など、さまざまな面で指導をしています。  
尾尻 ヨーロッパでは古くから、若いアーティストを支援する文化が息づいています。日本でももっと芸術に理解を示す心豊かな企業が増えてほしいですね。  
坂田 同感です。フランスの文化芸術予算は日本のおよそ10倍といわれています。それだけに、国家が文化の疑問も持たないんですね。食事とワインとパレエとオペラは、生きてくうえで、必要なものだという考え方が当然のようにある。もともと土壌が違います。  
尾尻 日本も見習わないと経済も文化も後進国になってしまうそうですね。  
坂田 そうですね。日本でもクラシックやオペラをもっと身近に楽しんでもらえる人たちが増えるといい。それが、音楽に対する私の恩返しにつながると感じています。

尾尻 確かに。それですますますオペラの虜になられたわけですね。

坂田 それともひとつの大きなきっかけがありまして……。完結した今だからこその話ですが、実はその頃、保証人を請け負ったことで、膨大な借金の肩代わりをする事になりました……。

尾尻 それは一大事ですね。

坂田 サラリーマンとしては大きな額だったので、生きることへの絶望感も味わったわけですね。

尾尻 なるほど。それは厳しい話ですね。しかし、それとオペラはどう

関係するのでしょうか？

坂田 大変厳しい状況ではあったのですが、食費を削つても東京文化会館の5階の機材席に行つて、オペラを観続けていたんです。

尾尻 それほどまでに、オペラを必要とされていたということですね。

坂田 はい。オペラを観ていると心が洗われて、少し格好つけて言うけど、芸術はなくても死なない、でも、芸術があればこそ生きられる。このことを、身をもって経験しました。以来、オペラにのめり込んでいったのです。  
尾尻 人は挫折感を味わうと、なか

尾尻 若手の芸術家にとっては嬉しいことですね。でも、日本の企業の多くは芸術支援の大切さを、まだ理解できていないので、協賛を得るのは難しいことではないでしょうか？

坂田 おっしゃる通りです。日本の場合、芸術が文化に根ざして育っていない分、企業のトップが株主に、芸術の必要性を説明しづらい現状がある。株主への利益還元と芸術支援が結びつかないんです。  
尾尻 よくわかります。芸術に対して投資することが企業価値を高めることを理解してもらわないことには、なかなか難しいですよ。海外の投資家は、そのあたりもきちんと理解しているんですけどね。  
坂田 だからこそ、私は企業側が株主に説明できるロジックを作ること

に力を入れています。芸術活動がいかに顧客や株主に満足度を与え、社会に好影響を与えるかを明確に示すようにしています。  
尾尻 若手アーティストはどうやって

## 日本でもっと芸術に理解を示す 心豊かな企業が増えてほしいですね。

尾尻

なかな行動に移せないものですが、あって好きなオペラを聴き続けたことが、その後、いい結果につながったのかもしれないですね。

坂田 私もそう思っています。

尾尻 現在は代理店を辞められて、独立されたわけですが、具体的にどういったお仕事をされているのでしょうか？  
坂田 若手音楽アーティストの支援と日本の芸術界の市場拡大が主な仕事になっています。私自身、辛い

経験をしたことで、ずっと心の支えになっていた音楽業界に恩返しをしたいという気持ちが強いですね。  
尾尻 具体的に言いますか？  
坂田 たとえば若手アーティストを発掘して、企業の宣伝や商品プロモーションにキャラクターとして使ってもらおうと提案しています。



かに顧客や株主に満足度を与え、社会に好影響を与えるかを明確に示すようにしています。  
尾尻 若手アーティストはどうやって

ホテルニューオータニ ロビイ階  
バー カプリ  
東京都千代田区紀尾井町4-1  
● Phone 03-3238-0035  
● 11:30~翌1:00  
● 無休  
フランス人画家、ポール・アイズビリがこのバーのために描いた7点の連作「カプリ島シリーズ」が、華やかなリゾート気分を誘うホテルのメインバー。日曜日を除くパーティタイムはピアノの生演奏があり、シガーも楽しめる。無料で利用できる個室も用意。  
©The New Otani

ザ・マッカラン12年  
1824年にウイスキーの聖地、スベイスайдに設立。英国ハロッズ発行の「ウイスキー読本」において、「シングルモルトのロールスロイス」と称えられる「ザ・マッカラン」。「ザ・マッカラン12年」は、鮮やかな金色、バニラのような香り、ドライフルーツやシェリーを思わせる深い味わい。  
「ザ・マッカラン12年」700ml  
希望小売価格4620円  
©サントリー ☎0120-139-310